

食べ物と世界のつながりを考えよう！

校長 松本 雅史

少し前に、フードマイレージというお話をしました。これは、私たちが食べているものがどこから来ているのか、その食べ物を運ぶのにどれだけエネルギーを使ってしまふのかということでした。運ぶ距離が長ければ長いほど、たくさんの燃料を使います。燃料は、主に石油です。石油は燃やすと二酸化炭素が出ます。この二酸化炭素は、地球温暖化の大きな要因のひとつとされていて、世界中でその排出を減らそうという努力がされています。ですから、燃料をできるだけ使わない方が、環境にいいということになります。近いところで作られたものを利用したり買ったりするのがエコだということです。学校の給食では、なるべく小平の畑で作られた野菜を使おうとしています。地域の農家さんを大切にすることは、エコにもつながるのですね。

食べ物のことですが、日本はたくさんの食べ物を外国から買っています。それだけたくさん石油を使っています。鶏肉や玉子は、ほとんど日本で生産していますが、鶏が食べる餌はほとんど外国から買っています。ですから、外国のお世話になって、たくさんの石油を使っていることには変わりありません。米や野菜を育てるといっても、日本では、農薬を使って害虫を殺して、薬をまいて病気を防いで、化学肥料をたっぷりまいてその栄養で育てています。こうした薬や肥料の原料もみんな外国から買っています。やっぱり、外国のお世話になって、たくさんの石油を使っていることになります。お魚も、日本の周りの海でたくさんとれますが、船は石油で動かします。外国とのつながりの中で、日本の私たちのくらしが成り立っているのです。世界が平和であるということは、とても大切なことです。

けさは、私たちの食べているものは、世界とつながっていて、世界に支えられてようやく成り立っているということについてお話ししました。いろいろ知っても、私たちにできることは、そんなに多くはないかもしれません。でもなるべく近いところのものを買おうとか、今ある食べ物を無駄にしないように大切にしようということ是可以すると思えます。そうした、一人一人の気持ちと行動が、地球をより良い方向に導いてくれると思えます。

これで今朝の話を終ります。